

U15 マウントチャールストン (ネバダ)

マウントチャールストンへは1983年の暮れに訪れ、岩と雪誌にも紹介した。1996年2月に再び訪れて見た。前回同様冬に訪れたが十分クライミング可能であった。今回はトニー・ヤニコ、ダグ・エンドリンガーなどアメリカを代表するクライマーの登りを見ることが出来た。彼らはエリアの最奥のコンプトンケイブにある大ループのプロジェクトがかりきりであった。間所によると2年程前からヤニコはここに通いつづけているらしい。グレードは完成すれば5.14の真ん中以上らしいが、とにかくものすごいループなので見た目にもカッコいいルートである。しかしその登りは言うとお世辞にも綺麗ではなく、想像した通りのバークライミングであった。この周辺には、まだまだ無限に岩場があり今後も発展していくことは間違いないだろう。その他にもこの周辺にはエリアが幾つか紹介されている。例えばレッドロックス近くにもラスベガスライムストーンと題して紹介されている岩場がある。また、禁止になってしまったがシャーマンケイブ。

さらに、ずれ紹介されると思うがキラケイブと呼ばれるシークレットエリアがあり、すさまじいリンク帯で超高難度ルートしかないエリアもある。そして、今回1998年6月にまた訪れてみた。コンプトンケイブのプロジェクトはクーリングダウン5.14a。さらにクリス・シャーマンによって上につながるフェイスル5.14b。

そしてトニーの課題はアスタラ・ピスタ5.14bとして完成して、多くのトップクライマーを現在でも迎えている。

岩質
石灰岩

ルート

メインエリアはフードと呼ばれるところで大小4箇所ほどのケイブがある。ケイブの中には幾つかのルートが築かれているがすべて高難度のルートである。中でもコンプトンケイブは必見の価値のある大ケイブである。

ケイブとケイブの間にはすさまじいスラブがありここにも幾つかルートがある。その手のクライマーにはもちろんかもしれないが、ぶつ取り付く気にはなかなかない。ルートの多くはカットとカットをつなげて行くのが多くなかなか面白い。ただしほとんどのラインにチッピングされてる。南面で冬は2時すぎまで日があたる。雨でもケイブ内のルートは登れる。ただし5.12の後半は登れるクライマーでないと、もしかしたら全く楽しめないかも知れない。

宿泊

すぐそばにキャンプ場がある。1日1泊12ドルでシャワーは無い。クライマーの多くはコンプトンエリアの入り口の手前の林道の奥の広場(彼らはフリーキャンプ場と呼んでいた)にテントを張っていた。それ以外は一切ホテルがある。食料などの買出しなども考えるとラスベガスをベースにするのが良いだろう。

シーズン

標高が高いため夏でも登れると言うが、6月に行ったらまだ雪が残っていて、私達の3日後に来たクライマーは雪が降ってきたと言っていた。最低でもジャケットくらいは持って行ったほうがよい。おそらく春から秋がベストであろう。冬は寒すぎると思われがちだが、実際ヤニコなどは毎日通っており晴れば十分登れる。

ショッピング

ラスベガスですべての物が手に入る。

アプローチ

LAS VEGAS から95号を北に向かい157号と交わり左方向へ。20分ほど走るとチャールストンホテルやキャンプ場を過ぎてOLD TOWNの村に入る。FOODエリアへは157号が左へカーブする所から真一直ぐECHORDに入る。しばらく走ると路肩がありそこからハイキングのトレイルがある。路肩に車を止めハイキング道を10分ほど進むと岩場が見える。最後に5分の急登がある。